

進路だより



茨城県立那珂高等学校進路指導部

令和5年度の合格概況について

【国立大学合格2名】(前年度1名)

山形大学理学部と茨城大学農学部それぞれ合格者が出ました。2人には共通点があります。元来関心のあった化学・生物等の分野について、低学年のうちから学校の授業の範囲を超えて、読書や実践的な活動・学びを深めてきたことです。そして、かなり専門的なところまで知識を持っていました。学校外の講演会や大学での研究発表にも参加してきました。評定平均が高いことや生徒会・委員会や部活動等の実績。それらのことだけは合格に近づきません。大学の先生にも感心してもらえるような探究的活動を、早期から深めることが重要です。別の言い方をすれば、その「武器」があれば道は開けるということです。

【私立大学合格83名】(前年度61名)

私大進学者の実数は68名ですから、一般試験で複数合格を得る生徒が多かった事が分かります。日本大学や東洋大学、大東文化大学など、東京の中堅私大に一般試験や総合型試験で合格した生徒が増えました。これらの意味で、チャレンジングな集団だったといえるでしょう。

学科別にみると、看護・医療系(作業・理学療法、放射線、臨床検査など)が15名。食物・栄養系が8名(7名が男子)と多くなっています。また児童・初等・中等教育の道へ進んで教師の道を目指す生徒も増えてきました。



【短期大学進学5名】(前年度7名)

地元の短大を中心に、学科としては幼児教育系が多いです。短大での生活は授業、レポート、試験、実習と想像以上に濃密な2年間ですから覚悟も必要です。また、教育者として自らの人格を高めることも大切なことです。

【高等看護専門学校進学9名】(前年度9名)

県立中央看護1名、土浦協同病院2名、茨城北西6名です。男子4名、女子5名です。看護職に限らず、那珂高校では進路(職業)選択におけるジェンダー平等を見ることが出来ます。また、現実として医療現場では多くの力仕事があり、男性看護師を必要としています。

【一般専門学校進学41名】(前年度56名)

県立IT短大(2年終了後に大学校へ進学可)の3名を含みます。情報処理や電機、建築、自動車を学ぶのであれば、県立の短大や産業技術学院をお勧めします。地域や企業からの信頼が厚く、正社員就職率も100%です。民間の学校では、作業・理学療法や歯科衛生など医療系の学科に進学する生徒が多いのが本校の特徴です。

【公務員合格2名】(前年度11名)

茨城県警察官1名、ひたちなか市役所1名です。令和6年度は公務員の定年延長実施初年度だったこともあり、那珂高校では志願者が大幅に減少しました。しかし、採用数に大きな変化はありませんでした。

市町村においては、統一試験日以外に複数の試験日を設定したり、テストセンター方式を導入して、任意の日に受験できるようにしたりするところが増えています。結果として極めて高倍率となり、合格が難しくなっています。国や県の試験も積極的に受験していくことを強くお勧めします。

【企業就職19名】(前年度24名)

男女を問わず製造業の現業職への就職が多くなっています。他の業種・職種と比べて、休日もしっかり取れることがメリットであり、大きい企業は給与や賞与等の待遇も良くなっています。5年度は大きな事業所の事務職に1名、金融機関に3名の生徒が内定を得たことが、ひとつのトピックです。

那珂高校では生徒一人あたり3~4社を見学して受験企業を決めています。さらに6年度からは複数(二社応募)が可能となる場合もあります。じっくりと比較検討をし、後悔の無い選択をしてください。

